再生可能エネルギーの導入目標の設定の考え方について(案)

《日標の設定方法》

現状の愛知県における再生可能エネルギーの導入実績を把握するとともに、導入ポテンシャル等を踏まえて、目標を設定する。

① 愛知県における再生可能エネルギーの導入実績

- ・ 導入実績については、再生可能エネルギー発電は資源エネルギー庁の「固 定価格買取制度(FII)」の導入量に基づき整理した。
- ・ 愛知県における再生可能エネルギーの導入は年々拡大している。2021 年度 の再生可能エネルギー発電の導入量は約335万kWであり、最も多いのが非 住宅用太陽光発電(10kW以上)の約185万kW、次いで住宅用太陽光発電(10kW 未満)の約104万kWとなっている。

② 愛知県における再生可能エネルギーの導入目標設定の考え方

・ ①で把握した現状の導入実績に加え、FIT の認定状況や環境省の「再生可能エネルギー情報提供システム (REPOS)」による導入ポテンシャル等を踏まえて、再生可能エネルギー種類別に表1のように導入目標を検討する。

表 1 愛知県における各種再生可能エネルギーの導入目標設定の考	きえ 方
---------------------------------	------

	~ ~~~~~	
	種類	導入目標設定の考え方
発電	住宅用太陽光	・現在までの導入量の推移や今後の世帯数の推移等を踏まえて、 2030年度における現状すう勢を推計 ・今後、環境省「REPOS」による導入可能量(ポテンシャル)と比 較し、実現可能性を検討(必要に応じて現状すう勢から補正)
	非住宅用太陽光	・現在までの導入量の推移や今後の事業所の推移等を踏まえて、 2030年度における現状すう勢を推計 ・今後、環境省「REPOS」による導入可能量(ポテンシャル)と比 較し、実現可能性を検討(必要に応じて現状すう勢から補正)
	風力(陸上)	・現在の導入量の推移やFITの認定状況、環境アセスメントに要する期間等を踏まえて、2030年度における現状すう勢を推計・今後、環境省「REPOS」による導入可能量(ポテンシャル)と比較し、実現可能性を検討(必要に応じて現状すう勢から補正)
	小水力	・現在の導入量の推移やFITの認定状況等を踏まえて、2030年度 における現状すう勢を推計 ・今後、環境省「REPOS」による導入可能量(ポテンシャル)と比 較し、実現可能性を検討(必要に応じて現状すう勢から補正)
	バイオマス	・FIT の認定状況等を踏まえて、2030 年度における現状すう勢を 推計
	地熱	現時点で FIT の認定量がなく、2030 年度までに導入が想定されない。

資料4

表っ	愛知県における再生可能エネルギーの導入実績及び参考値	「畄位·万LW]
衣∠	支加宗にのける丹工可能エイルイ―の導入美積及い参方値	L 単位:刀 KW」

年度**1	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2030
住宅用太陽光発電 (10kW 未満)	50.2	57.3	64.2	70.7	76.0	81.9	88.6	95.6	103.7	約 140
非住宅用太陽光発電 (10kW 未満)	35.0	70.6	104.9	125.5	139.4	154.0	171.7	180.5	185.3	約 230
風力発電	5.4	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6	6.5	6.5	6.5	約 13
小水力発電	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	約1
地熱発電	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
バイオマス発電	7.8	8.0	8.2	8.4	17.5	20.6	37.2	38.5	38.7	約 110
合計	98.4	142.7	183.9	211.4	239.7	263.6	304.3	321.4	334.6 (4.4% ^{**2})	約 490 (3.6% ^{※3})

- ※1 各年度末時点の値。2030年度は、現状より推移した場合の推計値(参考値)
- ※2 国内の設備導入容量 (FIT) に占める本県の比率
- ※3 2030年度における国の再生可能エネルギー導入見込量に占める本県の比率



<参考)

「地方公共団体実行計画 (区域施策編) 策定・実施マニュアル (本編)」(令和4年3月環境省大臣官房環境計画課) より

- ▶ 地域の再生可能エネルギーポテンシャルを最大限活用する観点から<u>設備容量(kW)で再生可能エネルギー種別に設定することが望ましい</u>と考えられる。
- ▶ 生産規模を示す「設備容量(kW)」ではなく、生産量を示す「発電電力量(kWh)」(あるいは 熱量(GJ))や、地域のエネルギー消費量のうちどれだけの量を再生可能エネルギーで賄う かといった目標設定についても、地域の状況に応じて柔軟に選択することが考えられる。